

## 令和4年度 長門高等学校 学校評価書

### 1 学校目標

校訓 「自治」「自学」「自尊」

自治能力のある者は、社会のルールを守り、物の道理に従い自らを規制してゆくことができ、自らの言動に責任を持つ者である。学ぶということは本来自力本願のものであり、他人に依存するべきものではない。人生において価値のあるものは、それを得るに足りるだけの学びの努力をし、自らの潜在する能力を引き出すことである。自らを尊ぶ者は、他人はなおさら尊ぶことができる。人の命の尊厳、人権の尊重等である

生活信条 五訓「素直」「感謝」「謙虚」「奉仕」「謙讓」

建学の精神 本校は1956年に創立されました。当時、長門市を中心とする北浦地域は、産業の発展と文化の進展に伴い、教育に対する関心も高まって、年々進学希望者が増加した。地域内高校の収容力も限界を超え、経済的な負担を顧みずに遠く地域外の私立校へ進学するか、進学希望を断念するか、の二者択一の選択で高校増設が望まれていた。そうした中、地域の要望に応えるかたちで開学されました。校訓を基に、学ぶ意欲を持ち、そのための努力を惜しまない全ての者に門戸を開くという建学の精神の下、北浦地域で教育が受けられなかった生徒にその機会を与え、この地域になくしてはならない人材の育成に力を入れる。

教育方針 建学の精神と校訓を基盤とし、「なりたい自分」を明確にし、長期的な人間性の向上や生徒自身が達成したい目標を実現していくことを目指します。また、進路設計や教科学習、部活動、人間関係といった生活のあらゆる場面で、課題を発見し解決する能力を育み、「望む人生」を実現するために必要な「生きる力」を育てていきます。

教育目標

- 1 基本的な生活習慣を身につけた社会から認められる生徒の育成をめざす。
- 2 個性を尊重し、きめ細かい学習指導を通して学力向上をめざす。
- 3 個々の能力・適性を見極め、適切な進路指導を行う。  
※保護者は出口(進路先)を評価する。
- 4 様々な資格取得を通じて社会で求められる人材育成を行う。
- 5 現在や将来を見据えることなどを主眼としたキャリア教育の実践を行う。

### 2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

#### 生徒指導

##### ①基本理念

『生活信条五訓を重んじ、生きる力を身につけた人材の育成』

##### ②目標

- 相手に伝わる挨拶
- 時間厳守(遅刻、授業開始時間厳守)
- 問題行動未然防止
- スマートフォンの使用マナー向上
- 目上の人に対しての言葉遣い
- 授業の取り組み姿勢
- いじめ撲滅

## 進路指導

### 1 進学

- 模試分析や進路希望調査、学習状況調査などから、個々の生徒に応じた学習の在り方について指導する。
- 外部の業者による進路ガイダンスを実施して、キャリア教育を含めた指導体制を築く。

### 2 就職

- 就職試験対策は3年になってからでは遅いので、1・2年次より就職に対する意識付けを行う。
- 学校生活全般の目標に沿った指導体制の着手を早目に行い、特性を発揮する。

\* 私立高校県内定住促進事業      \* 企業職場見学      \* 企業訪問

\* 高校生就職ガイダンス      \* インターンシップの実施

#### ● 強調事項

- ・ 働くことの意義
- ・ 基礎学力の充実
- ・ 挨拶、返事、態度の徹底指導
- ・ 教務、生徒指導係との連携強化

## 特別活動

- 体育大会、緑風祭(文化祭)、クラスマッチなどの学校行事は、生徒会や企画・運営委員を中心に主体的に取り組み、より価値観の高いものにする。
- 部活動顧問会議を通して、クラブ活動の在り方について共通認識を持つ。
- 本校生徒としての誇りを持ち、地域のボランティア活動に主体的に参加協力する。

## 情報・広報

- 緊急メールの登録を推進し、緊急時に円滑な情報伝達が行えるようにする。
- ホームページをリニューアルし、学校内外へ情報発信を積極的に行う。  
更新に際しては、迅速な更新に努め、広く周知できるようにすると共に、個人情報保護に充分配慮する。

## いじめ対策・体罰対策・学校諸問題

- 生徒指導部が中心となって生活アンケート等を実施し、いじめ等の早期発見・早期対応に努める。
- 部活動や教育活動全般において、体罰が行われないように注意する。また、生徒指導において、効果的な方法について研修する。
- 外部からの電話等による苦情が入った時は、状況確認を適切に行い、対応を誠実かつ丁寧に行い、改善に努める。

## 保体環境

### ①環境美化

- ・ 美化委員を活用して、掃除の見回り監督を強化して環境美化に努める。
- ・ 掃除道具の定期点検を行い。不備のないように確認する。

### ②防災安全

- ・ 定期的に防災、不審者対応避難訓練を実施し、避難経路や役割分担の確認を行う。
- ・ 危機管理マニュアルの防災安全の見直し、改善を行う。

### ③健康衛生

- ・健康増進の意義を理解し、生徒自らが実践できる能力と態度を育てる。
- ・学校保健年間計画の実施と見直し改善を図る。
- ・定期健康診断を計画的に実施し、異常がみられた生徒に対して治療勧奨する。
- ・朝の SHR で健康観察を確実にいき、生徒の健康状態を把握する。フォーサイト手帳を活用し、検温、行動の記録をきちんと記録させる。
- ・普段から正しいマスクの着用、手洗い、消毒、うがいなどの感染症対策に努める指導を行う。

## 3 本年度重点を置いて取り組むべき課題

### ① 安全・安心な学校生活

- ・感染症対策 新型コロナウイルス感染症予防ガイドラインに基づき感染症対策を確実に実行する
- ・事故防止対策
- ・いじめ防止対策
- ・防災、不審者対応避難訓練の見直し及び実施
- ・交通マナー向上や交通事故減少を目指した指導の強化を図り、交通安全規範意識の高揚。
- ・思いやりのある豊かな心と健やかな体づくりの推進
- ・コミュニケーション能力の育成(自他の尊重、認め合い高め合う力の育成)
- ・自己肯定感・自己存在感をもたせる指導の充実
- ・規範意識や倫理観の醸成

### ② 明るい職場づくり

- ・職員間の決定事項は、全員が一致協力して実行。
- ・笑顔で挨拶し、生徒とのコミュニケーションをとる。

### ③特色教育

- ・生活指導の徹底(服装、髪型、挨拶、礼儀、態度…) まず、教員が見本となる。
- ・各講座の充実(建機、医療事務、公務員、ニーズを見ての講座の設定)
- ・部活動を通しての生徒づくりと学校の活性化
- ・体験学習活動や地域ボランティア活動への取組の充実

### ④授業時数の確保

- ・行事の精選、自習時間の皆無 出張や年休の時間変更は早めに申し出る。

### ⑤進路指導

- ・学年に応じた進路指導と個別相談、三者懇談の実施。
- ・支援組織や就職指導員を活用した進路指導。
- ・履歴書記入の仕方について徹底指導をする。
- ・応募前見学を積極的に推進し、希望の職種や仕事内容に理解の相違が生じないようにする。

### ⑥学習指導(やる気を起こさせる授業、わかる授業、役立つ授業)

- ・到達度を把握しての授業の取り組み
- ・習熟度別授業の活用 (クラス分けと評価に気をつける。)
- ・授業目標達成に向けた、シラバス・進度表の見直し
- ・課外授業、特別講座に積極的に協力し、学力の向上を図る。
- ・技能取得のための授業改善と特別指導
- ・普通科の英語では、T・Tによる授業展開により、きめ細かい学習指導を行う。
- ・観点別評価への対応を確実に実施する。

⑦生活指導

- ・生徒指導は教員の同一視線、同一步調で共通理解のもと、ぶれることなく行う。
- ・社会人として認められる生活態度を身につけさせる。 いつでも就職試験にいける状態を保つ
- ・個別指導による個の伸長
- ・生徒の状態を適格に把握して、状況に応じた適切な相談・支援体制の一層の充実  
生徒の言動を把握し、早期指導(言動の変化を見逃さない)
- ・繰り返し問題行動が発生しないように、停学中の指導の徹底を強化し、反省を十分にさせる。
- ・保護者との相互の連携による粘り強い指導で、退学者0をめざす。

⑧クラス指導

- ・特色あるクラスづくり(あいさつ、整理整頓…)
- ・クラス委員の活動の場の設定
- ・LHRの持ち方の研究
- ・朝のSHRの時間の有効活用
- ・掃除の時間を通して勤労意欲の向上、生徒理解に努める。
- ・体育大会や緑風祭などの学校行事におけるクラスの取り組みを、クラス全員で協力していく体制づくりを目指す。

⑨寮の環境整備

- ・寮生の規律ある生活習慣の確立
- ・整理整頓された部屋と廊下周辺環境美化
- ・睡眠時間の確保
- ・教員が寮に宿直し寮生の指導に当たる

4 自己評価

	重点目標	具体的方策(教育活動)	達成状況の診断・分析	評価
生活指導	●頭髪・服装の徹底	全校集会で頭髪・服装検査の実施 不合格者は翌日再検査を行う。眉などは毎週水曜日に継続検査を行い、きちんとするまで行う。	頭髪・服装検査は事前指導により、合格できる形で検査に臨ませているため、達成状況は良好である。しかしながら、検査後に違反する生徒が、極一部であるが見られる。 いつでも就職試験に臨める髪型服装の徹底を日々行う必要がある。 【保護者肯定率 98.7%】	A
	●目の上の人に対する言葉遣い ●相手に伝わる挨拶	職員室に入るときの礼法や、授業の開始と終わりなど、学校生活全般において正しい言葉遣いを繰り返し指導する。 挨拶の励行。	職員室の出入りにおいては、先生方が常に指導されるため、ほとんどの生徒が達成できているように思えるが、挨拶については全くしないまた、出来ない生徒が少数いる状況である。生徒自らが挨拶をし始めるような指導が必要である。 【肯定率生徒 87.9% 保護者 77.7%】	B
	●時間厳守	授業開始時刻で遅刻することのないように指導。 また、授業の準備をきちんとして待つようにさせる。	10分の休み時間で移動教室や体育の着替えなどがあるが、全体的に良いように思える。また、一部教師が遅刻・延長しているため、しないように注意する。	B

生 指 導	●スマートフォンの 使用マナー	スマートフォンは許可制とし、授業や休み時間などの学校生活で使用することがないように指導し、違反した生徒には別途罰則規定に従い指導する。	生徒の情報モラル意識のなさによるSNSトラブルがあり、今後はより多くの情報モラル教育の実施する必要がある。	C
	●授業の取り組み姿勢	授業の状態について、生徒指導部並びに担任が巡視し、生徒の意欲的な学習の参加を促している。	各教科担当が、教材研究を行い、アクテブラーニングの手法で、生徒が主体的に学習に取り組むように工夫する。 ICT機器をもっと活用するよう研修を行う必要がある	C
	●問題行動未然防止 ●いじめ撲滅	定期的に生活調査アンケートを実施し、金銭の貸し借や所有物の紛失等の把握を的確に行う。そして、問題行動やいじめ撲滅のための早期発見、早期対応をして行く。 教育相談期間で生徒の悩み等に対応する。	問題行動の再発の事案があった事は、最初の事案に対応を検証し再発防止に努める。学校評価アンケートでは「いじめや嫌がらせを受けている。」の肯定率が5.6%あることから、何らかの嫌がらせを受けている生徒がいることが予測出来るが、いじめに関する調査では該当事案は報告されていない。また「悩みや困ったことがあった時は先生に相談できる」という肯定率が、昨年度72.2%から76.8%に上昇している。	B
	●スクールバスの利用マナーの向上	スクールバスの乗車態度について、注意事項のマニュアルに従ってきちんとさせる。	スクールバス乗車マナーについては大きな問題はなかったが、挨拶があまり良く出来ていなかった。	B
進 指 導 ・ 進 学	●家庭学習習慣の確立	普通科では各教科の課題やクラッシーを活用した自主学習を積極的に行うように指導する。	普通科では希望者にクラッシーを活用した課外授業を実施。また、自主学習を積極的に行うように学習計画表を立てさせて計画的な学習支援を行う。	B
	●基礎学力の確実な定着とより高い進路目標の実現に向けた学力の養成 ●キャリア教育の推進	商業科では各種商業検定に合格できるように家庭学習を意欲的に取り組ませる。 外部講師による進路ガイダンスを計画的に実施し、進路別テーマ学習を各学年に即して積極的に行う。	進路ガイダンスはコロナの影響で中止になったりしたが、開催されるものには積極的に参加を促した。	B
	●指定校推薦など推薦基準に達するための資格取得に対する取組の推進	推薦基準を適切に把握し、それを得るための主体的な取り組みを推進する。	指定校推薦は校内選考を適切に行い、それにふさわしい生徒を選ぶ。指定校が今後も継続するように留意する。	A

進路指導・就職	<p>●早期より就職に対する意識付けを行い、就職内定 100% に向けた組織的な取り組み</p>	<p>1・2年次より就職で大切な基本的な生活習慣を身につけさせる指導を心掛ける。また、支援組織や就職指導員を活用した進路指導の充実を図る。</p>	<p>新型コロナ感染症による経済不安により、求人が心配されたが、予想以上に求人があり安心した。また、就職試験においてもほぼ全員が第 1 希望の企業の内定を得たが、就職内定 100% を達成出来なかった。</p>	B
	<p>●キャリア教育の推進</p>	<p>県内定住仕事フェアへの積極的な参加及び応募前見学を積極的に推進する。そして、希望の職種や仕事内容に理解の相違が生じないようにし、離職率を下げる取り組みの強化をする。</p>	<p>今年度も、新型コロナの影響によりフェアの中止・縮小が相次いだ。開催されたものには積極的に参加することを促し、そして、希望の職種や仕事内容に理解の相違が生じないように務めた。</p>	B
特別活動	<p>●生徒会を中心とした学校行事の運営</p>	<p>例年は体育大会、緑風祭、クラスマッチなどの学校行事は生徒会を中心に主体的に取り組み、生徒のアイデンティティを高めている。今年度は、新型コロナの影響により規模を縮小して開催した。</p>	<p>今年度は、新型コロナの影響により規模を縮小しての開催であったが、生徒は良く工夫して企画・実行した。</p> <p>規模を縮小して開催しての開催についての回答率は</p> <p>【肯定率生徒 88.9% 保護者 84.2%】</p>	B
	<p>●地域ボランティア活動への積極的な参加、協力をする。</p>	<p>ダブルマラソン等のイベントは開催された行事には積極的に参加した。</p>	<p>イベントの開催が少ない為、ボランティア活動に多くの生徒が参加できなかったが、延人数で100名近い生徒が参加した。</p>	B
情報・広報	<p>●ホームページの迅速な更新</p>	<p>学校行事の内容について、内外に広く周知していただくため、迅速な更新を心掛ける。</p>	<p>ホームページの情報の更新わすれがあったが、インスタグラムを通じて多くの情報発信は出来た。また、コロナ禍の中での緊急連絡等もホームページに掲載し周知徹底が図れた。</p> <p>緊急連絡のまち comi、HP、Instagram は役立っているか?</p> <p>【肯定率生徒 82.9% 保護者 94.7%】</p>	A
	<p>●緊急メール登録の推進</p>	<p>台風などの天災時や、新型コロナ感染症等に備えて、指示・伝達を円滑に行うため登録の推進をする。</p>	<p>保護者の理解と協力を求めて、まち comi メール登録率を上げる。</p> <p>必要に応じてメール発信を行い、有用性を広げて行きたい。</p> <p>今年度も臨時休校などが多く、その伝達手段としてまち comi メールを多く活用し有用性は高まった。</p>	B

学 校 安 全	●学校安全点検を学期に1回（年間3回）定期的に実施	室管理責任者を中心に学校安全点検を実施する。そして、危険個所の改善を行い、安全・安心な学校生活が送れるように配慮する。	学校教員の安全配慮義務は、生徒の生命と安全・安心の確保において、全教育活動の基盤となる取組である。従って、学校評価アンケートにおいても重点的に考慮して行くことが大切である。 【肯定率 生徒 85.5% 保護者 81.6%】	B
	●防災、避難訓練の施と見直し改善	各学期に防災、避難訓練や不審者対策の訓練を実施し、学校危機管理マニュアルの見直しをする。	コロナ禍により各学期の防災、避難訓練が1回の実施となった。	B
	●定期健康診断の実施及び異常がみられた生徒に対する治療勧奨	保健調査票で、心身状態を把握を行い、学校と家庭の連携を図る。	定期健康診断の結果で受診を要する生徒にはお知らせしているが、受診状況に改善は見られなかった。	B
	●感染症対策	本校の新型コロナウイルス感染症予防ガイドラインに従って、家庭並びに学校生活において実践する。朝の健康観察を充分に行い、生徒の健康把握に努める。	マスクの着用、手洗い、消毒の徹底は、かなり意識されて実践できた。また、学校関係者より感染者・濃厚接触者が出たが、保健所の指示に従い休業措置及び出校停止措置により感染拡大を防止できた。	B
そ の 他	●学校満足度の向上	学校満足度を高めるため、常に生徒のニーズは何かを検討し、新たな取り組みを企画・実践する。	学校評価アンケートの生徒・保護者用でも、本校に入学させて良かったという肯定的なものであり、満足できる結果であった。生徒・保護者とも前年より肯定率は上昇。 【肯定率 生徒 75.7% 保護者 92.1%】	B
肯定率は、学校評価アンケートの評価で、1.よく当てはまる 2.やや当てはまる 3.あまり当てはまらない 4.全く当てはまらない 5.判断できない の回答で、5.を除く回答者のうち、1. 2. の占める割合である。また評価については、学校評価、生活調査アンケート並びに関係機関からの意見などを踏まえて評価している。				

5 学校評価総括(取組の成果と課題) (○：成果 ●：課題)
<p>【教務部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校関係者より感染者・濃厚接触者が出たが、保健所の指示に従い休業措置及び出校停止措置により感染拡大を防止できた。休業措置の間は課題を出すなど生徒の学習に向ける対応を実施した。</li> <li>● 新教育課程（観点別評価）の検証を行い、教務内規の修正を行わなければならない。</li> <li>● ICT 機器を活用した対応が出来るよう全教員への研修を実施予定であったが、十分な実施が出来なかったので引き続き研修を行う必要がある。</li> </ul>

**【生徒部】**

- 不適切な画像を SNS に上げる生徒がまだまだいるので、情報モラル教育の充実を図る必要がある。
- 今年度は問題行動が多発したことを受け、問題行動の未然防止に取り組まなければならない。

**【進路部】**

- キャリア教育の推進により、進路ガイダンスを計画的に実施し、生徒の方向性を早期に決定させることができた。
- 就職希望者数は昨年度より大幅に増えたが、SPI 対策や履歴書の作成、面接指導など、きめ細かい指導により大手企業をはじめ、生徒が希望した就職先の内定を決めることができた。
- 公立大学に今年度も合格者を出すことが出来たので次年度同様な成果を上げたい。

**【保体環境】**

- 毎朝の SHR の健康観察は、感染症の初期対応や傷病の早期発見等に効果を上げている。
- 学校安全点検を学期 1 回の年 3 回行うことで、教職員の安全管理意識の向上に寄与している。

**6. 次年度への改善策**

**【教務部】**

- ・ 授業評価アンケートを実施した。その結果から教師の何気ない一言で学習意欲をそがれることの重さを共有し、生徒とのコミュニケーション能力のスキルアップを図らなければならない。また、ICT機器の活用為の研修も随時実施していかななければならない。
- ・ 教育相談期間を活用して、中学から個別の支援計画を必要としていた生徒などの引継ぎを受けた生徒以外にも、生徒全員に対して生徒理解アセスメントを行い、学習支援の在り方を模索する。
- ・ 来年度も、授業研修、新任研修を組織的に行い、先生方のスキルアップをして行く。

**【生徒部】**

- ・ 学校評価アンケートでは「いじめや嫌がらせを受けている。」の肯定率が 5.6 %あることから、何らかの嫌がらせを受けている生徒がいることが予測出来るが、いじめに関する調査では該当事案は報告されていない。また「悩みや困ったことがあった時は先生に相談できる」という肯定率が、昨年度 77.2 %から 76.8 %に下降していることから相談体制の改善や教師の「話しやすい教師」となるためのスキルアップが求められる。

**【進路部】**

- ・ 昨年同様にキャリア教育の推進に力を入れて、適切な進路選択および早期進路決定をめざす。

**【保体環境】**

- ・ 昨年同様に学校の安全安心に対する配慮を入念にして、生徒の学校生活における安心感を高めさせる。

**【その他】**

- ・ 学校評価アンケートで、5.の判断できないに回答した割合が高いものについては、質問内容の在り方も含めて検討する必要がある。※評価の E は評価できないことを示す。